

すのてすのあし、あべこべ実験

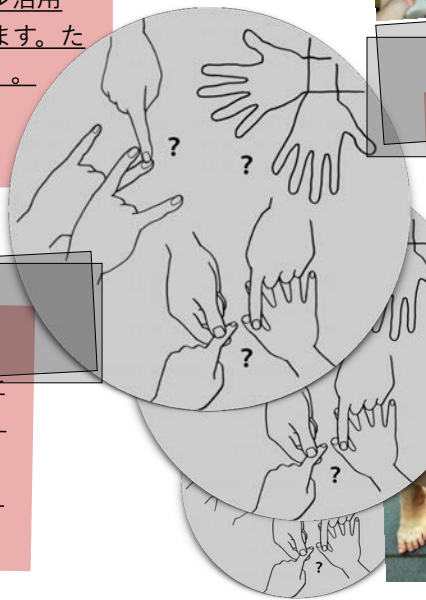
名古屋市立大学芸術工学部 小鷹研究室



<http://lab.kenrikodaka.com>

からだの錯覚は、コンピュータや大がかりな装置を使わなくても、素手と素足をフル活用することで、十分に楽しむことができます。ただし、一つだけ面倒なことがあります。一緒に遊んでくれる物好きな「相手」を探してきてください！！

「相手」を見つけてきたら、どちらか一方が、実験する側に、もう一方が、実験される側に別れましょう。一つの実験が終わったら、入れ替わって、実験をする側もされる側もどちらも体験してみてください。

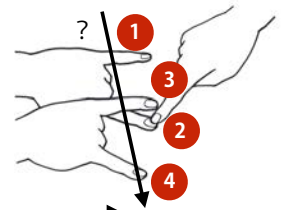


「すのて・すのあし・あべこべ実験」は、人によって感じ方が違うことがあります。「感じやすい人」も「感じにくい人」もいます。自分にとっての「当たり前」が、相手にとってはそうでない、そのような「分かり合えない」状況を通して、人それぞれが、頭の中に違うコンピュータを持っていることを実感することが大切です。

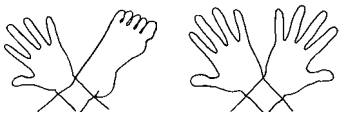


みぎて・ひだりて・あべこべ実験

手や足を交差した状態で、手足の左右を高速で連打されると、左右の判断が曖昧となることが知られています。これは、脳が、左右を「右手・左手」で判断するモードと、身体の「右側・左側」で判断するモードを持っており、交差状態ではこれらの二つのモードが相互に干渉（かんしょう）してしまうためと考えられています。



どちらの手が先に触られましたか？



上のように、手足を交差させて、相手の手または足の甲を「左、右」または「右、左」の順に、高速（タタン！！）に叩いてもらってください。10回中何回正解できましたか？手足を交差させない場合とも比べてみましょう。



トントトンは淀まない

上図のように、一部の手（指）だけを交差させて、1（トン）2（ト）3（ト）4（トン）の順に、手足を連打してもらってください。叩かれる人は、目を閉じたうえで、「どこを叩かれているか」ではなく、トントトンが「どのように流れているか」に注目してみてください。あたかも1324と綺麗に流れていくように感じませんか？

拒絶される クロスフィンガータップの 憂鬱



左右の人差し指をわずかに交差させて、目を閉じたまま、左右同時に皮膚の適当な場所を叩いてみてください。人によっては、交差が解けていくような感覚が生まれます。



さわる・さわられる・あべこべ実験

目を閉じて、一方の手で、いろんなところを触ってみてください。「触った感覚」のみであれば、それは自分の身体ではありません。「触った感覚」と「触られた感覚」が同時にくれば、そこは自分の身体（のはず）です。では、「触った感覚」の場所と「触られた感覚」の場所が違うときは、どう感じるでしょうか？実験しましょう。

実験される側は、右手を机に添え、人差し指のみを伸ばした左手の動きを、目を閉じたまま相手に委ねます。実験する側は、相手の左手の人差し指の腹で机をなぞると同時に、相手の右手の指をなぞってあげてください。20%くらいの人が明確に「自分で自分の指を触っている」と感じます。

